

「グループ学習(国語科)」(Gグループ)学習指導案

大阪府立和泉支援学校
T1 松浦 由輝子

1. 日時 令和4年11月11日(金) 第2時限(10:00~10:50)
2. 場所 家庭科室(プレハブ2階)
3. 学部・学年・組 中学部 第1学年(Gグループ) 6名
4. 単元名 『詩を作ってみよう』
5. 単元目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none">・自然の美しさを表した詩や書き手の感情や考えを表した詩があることを知ることができる。・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。・語のまとまりに気を付けて音読することができる。・発音や声の大きさに気をつけて発表することができる。	<ul style="list-style-type: none">・詩を読んで、情景や場面の様子、作者が伝えたいことを感じたり想像したりすることができる。・詩を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりできる。・見聞きしたことや経験したことの中から、伝えたい事柄を選び、書く内容を大まかにまとめることができる。・自分が書いたものを読み返し、間違いを正すことができる。	<ul style="list-style-type: none">・自分の表現したいことを見つけ、詩の構成について粘り強く考え、文を推敲して、自分なりに詩を表現してみようとする態度を養う。・友だちの考えに触れて、自分と違った考えを知ろうとする態度を養う。

6. 児童生徒観

本グループは、居住地の小学校から本校中学部に入学した生徒6名で学習している。入学当初は、小学校での失敗経験から「どうせできない」とあきらめる生徒や、失敗が怖くてできる課題しか取り組まない生徒、自分を上手く表現することが苦手で発表することに消極的になる生徒の姿が見られた。

その反面、「和泉支援学校で自分のペースで勉強をがんばりたい」「小学校の自分は嫌いで変わりたい」など学習に前向きに取り組む姿も見られるようになってきた。

中には文字を書くことや文章を書くことに苦手意識が強い生徒がおり、作文指導において「書く」力に大きな差がみられる。また、話を聞くことが苦手で、指示が聞けずに活動が遅れる生徒や友だちに率直に話をし過ぎてトラブルになる生徒、気持ちのコントロールが苦手で固まって動けない生徒など自立活動においても課題がみられる。

今回の単元である詩については、自分で考えた内容をまとめて文章にする力には大きな差がみられる。また比較的話すことが得意な生徒も、振り返りノートでは、「〇〇が楽しかった」など表現が単調になりがちで語彙力の乏しさがみられる。

7. 教材観

■ なぜこの単元を選んだか

・詩の鑑賞のみならず詩を創作した理由は、文章を書くことへの苦手意識をやわらげるねらいがある。自由詩は、特に決まりがないため失敗がなく、書くことに苦手意識がある生徒に取り組みやすい課題であると考えた。また友だちの前で発表して拍手をもらうことで、自分のありのままの表現を受け入れてもらえる環境があることを知り、「自分を認めてもらえる友だちがいること」や「失敗を恐れることなく、挑戦することがすばらしいこと」に気づいてもらいたい。

■ なぜこの教材を選んだか

・詩の鑑賞では、同世代の子どもたちが作った作品や三行詩という身近な事柄で書いた短い詩を鑑賞することで、より内容を理解しやすく共感しやすいよう工夫した。また一行詩や三行詩は短いため創作しやすく、詩を作ることは難しくないと感じる生徒が増えることを願っている。
・オマージュ(マネ)しやすい詩を取り入れ、見本の詩をオマージュすることで、より詩が作りやすくなる考えた。
・絵を書くことや文字をきれいに書くことが得意な生徒がいたため、生徒の良さを活かす活動として詩集を作る

内容を取り入れた。どの生徒が作り上げた作品も大切なものとして大事に製本することによって、自分が学んで作り上げたものに誇りをもってもらいたい。

【参考資料】

『ことばのしっぽー「こどもの詩」50周年精選集』(読売新聞監修)

『続々・こどもといっしょに読みたい詩』(あゆみ出版) 『気持ちを表すことば』(光村教育図書)

『12歳までに知っておきたい語彙力図鑑』(斎藤孝・著) 『NHKわかる国語の読み書きのツボ』

8. 指導観

■ 主体的な学び:活動に興味を持って取り組む。見通しを持つ。振り返る。

- ・タブレットを使用することで、見栄え良く詩を仕上げることができ、書くことが苦手な生徒の意欲の向上にもつながると考えた。また詩と相性の良い写真を容易に使用できることも利点であると考えた。
- ・初期の段階から他グループの生徒に創作した詩を発表することや詩集を作ることを見通しを提示することで、ある程度のプレッシャーをもって学習に取り組むことができ、学びの意欲につながるのではないかと考えた。
- ・授業の終わりの5分間でその授業で学んだことや感じたことを振り返り、自分自身の言葉で記録する。語彙力の育成にもつながると考えている。

■ 対話的な学び:互いの考えを比較する。自分の考えをまとめる。

- ・ペアの友だちと話し合いながら、好きな詩を選んだり、詩集の構成を考えたりする活動を通して、友だちの考えに触れて、自分と違った考えを知ろうとする態度を養う。また、友だちの意見を知って自分の考えをまとめる経験を積む。

■ 深い学び:自分の思いや考えと結びつけて、新たなものを作り上げ、発表する。

- ・生徒に合わせて、考えを掘り下げるためにテーマを視覚化(マインドマップなど)しながら決めたり、写真から創作したり、あるいは詩のオマージュから創作したりと、その生徒に合わせて創作方法を提示しながら、詩を作り、発表へつなげたいと考えている。

■ 安心できる学びの場の構築

- ・「相手を知ること」「自分を知ること」「失敗を恐れずに自分を表現すること」という3点を重視し、授業作りに取り組んできた。『私のいいところ探し』という自己理解を促す学習やペアになって友だちのことを取材して他者紹介する『友だちレポート』という授業を通して、自分と友だちとの違いに気づく中で、自分自身について知ることができるよう授業を進めてきた。
- ・話すことへの恥ずかしさや間違いへの不安を払拭するために、英単語や早口言葉などのフラッシュカードで大きな声を出して発音すること、当番の司会、誕生日会の司会など話す活動を積極的に取り入れた。その他、友だちと協力して誕生会の企画運営を行い、信頼できる仲間づくりに力を入れた。

9. 単元(題材)の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①自然の美しさを表した詩や書き手の感情や考えを表した詩があることを知っている。	①詩を読んで情景や場面の様子、詩のテーマを感じたり想像したりしている。	①写真や自分の好きなことなどから自分が表現したい詩のテーマを見つけて、粘り強く考え、推敲して作り直しながら詩を創作しようとしている。
②言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。	②詩を読んで感じたことを伝えたり、感想をもったりしている。	②話し合いや発表の場面で、友だちの考えに触れて、自分と違った考えに興味を持とうとしている。
③語のまとまりに気を付けて音読している。	③自分で選んだテーマに合わせて、書く詩の内容を大まかにまとめている。	
④声の大きさ、はっきりゆっくり話すこと、姿勢の3点に気を付けて発表している。	④創作した詩をもう一度見直して、文章を推敲している。	
⑤タブレットの操作方法を身につけている。		

10. 単元の指導と評価の計画(全13時間、本時は第11時)

次	時	学習内容・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1	<p>「詩とは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を見通し、めあてを知る。 ・☆☆☆☆国語教科書の詩や中学生が実際に詠んだ詩を音読する。 ・詩の情景や作者の気持ちを想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩から想像できる写真を提示することでより詩の内容をイメージしやすいように工夫する。 ・身近な同年代の中学生が読んだ詩を選ぶことで、生徒の興味関心を高める。 	A①②③④ B①② C②
	2	<p>「好きな詩を選んで友だちと話そう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な詩を読んで詩のテーマについて考え、好きな詩を選ぶ。好きな理由を考えて友だちや教員と意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと話し合う場面や発表する場面を設定することで、生徒自身が感じたり考えたりできるよう工夫する。 	観察 振り返りノート
2	3	<p>「一行詩を作ってみよう 1」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「星空」の写真をみながら比喩を使った一行詩を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末(class room)を利用することで、書くことに苦手意識がある生徒や自分の意見を表現することに抵抗がある生徒の興味関心を高める。テンプレートを入れておき、困難なく使用できるようにする。 ・マインドマップを作成することで、語彙を増やし、星空のイメージをふくらます。 ・例文をあらかじめ示して、比喩の穴埋めを予想しやすくする。 ・友だちの作品を鑑賞して、自分と違った考えに触れる場面を作る。また、良いところなど感想を出し合う。 ・見本となる良い作品を例に示して、詩の表現技法(比喩)を伝える。 	A①②③④ ⑤ B①②③④ C①② 観察 振り返りノート
	4	<p>「一行詩を作ってみよう 2」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「空」をテーマに比喩を使った一行詩を作る。好きな空の写真を選んで比喩の詩を作成する。 		
	5	<p>「推敲して一行詩を完成させよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤字脱字、意味のまとまりを考えて改行するなど見直して、詩を完成させる。 		
3	6	<p>「マネて詩を作ってみよう 1」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『世界を支配できたら』の詩をオマージュして、詩を作成する。出来上がった詩をもう一度推敲して作品を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共感できそうな作品を引用して続きを作成し、詩を書くことへの成功体験が積めるようにする。 ・タブレット端末(class room)に詩のテンプレートを入れておき、写真の貼り付けなどがスムーズにいくよう工夫する。 ・見本となる良い作品を発表しながら、文章の推敲の仕方を伝える。 	A①②③④ ⑤ B①②③④ C①② 観察 振り返りノート
	7	<p>「マネて詩を作ってみよう 2」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ころよ』『私と小鳥と鈴と』の詩のどちらかをオマージュして詩を作成推敲する。 		
4	8	<p>「私のオリジナル詩集を作ろう 1」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの作品を推敲して完成させる。 ・表紙を清書する。 ・挿絵などを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見本となる良い作品の推敲前と推敲後の文章の変化を提示しながら、推敲の仕方を具体的に示す。 ・筆ペンを使用して、丁寧な文字を書いて清書することへの意識を高める。 	B④ C① 観察 振り返りノート

5	9 ・ 10	<p>「テーマを決めて詩を作ってみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩のテーマを決めて詩を作る。 ・見本となる良い作品を通して詩の表現技法を学ぶ。 ・次回に作る詩の創作方法や使用する表現技法、テーマを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な同年代の中学生が読んだ詩や3行詩などを読んでテーマを考える中で、実体験を振り返り、自分が書きたいテーマが見つかるような言葉かけを行う。 ・見本となる良い作品を発表しながら、詩の表現技法(比喩、反復、体言止め)について視覚的に分かりやすく示す。 	<p>A②③④⑤ B①③④ C①② 観察 振り返りノート</p>
	11 本 時	<p>「自由に詩を作ってみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩の表現技法を復習する。 ・class room で詩を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悩む生徒には、写真やテーマのマインドマップで、イメージが広がるよう支援する。また具体的に実体験を振り返るよう言葉かけを行う。 	
6	12	<p>「私のオリジナル詩集を作ろう 2」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩集を製本する。 ・発表の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製本済みの見本を提示し、製本テープの使い方を視覚的に分かりやすく示す。 ・発表の練習をする時間を設定する。 	<p>A③④ 観察 振り返りノート</p>
7	13	<p>「私の詩を発表しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他グループの生徒に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の時の注意点を視覚的に示すことで声の大きさやゆっくり話すことを意識するよう促す。 	<p>A③④ C② 観察 振り返りノート</p>

11. 本時の展開 【11時間目:自由に詩を作ってみよう】

(1) 本時の目標

- ・自分で決めた詩のテーマに合わせて、詩の内容を大まかにまとめることができる。
- ・写真やオマージュ、詩の表現技法など自分で選んだ手段を用いて、詩を創作することができる。

(2) 本時の評価規準

- ・自分で決めた詩のテーマに合わせて、詩の内容を大まかにまとめようとしている。(B③)
- ・写真やオマージュ、詩の表現技法を選択し、粘り強く考えて詩を創作しようとしている。(C①)

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・タブレット、HDMI ケーブル、ライトニング変換ケーブル
- ・話す時のポイント表、声の大きさ表、当番表
- ・「詩に親しもう⑦」プリント(前回の授業で作成)

(4) 生徒の実態と本時の目標

※省略※

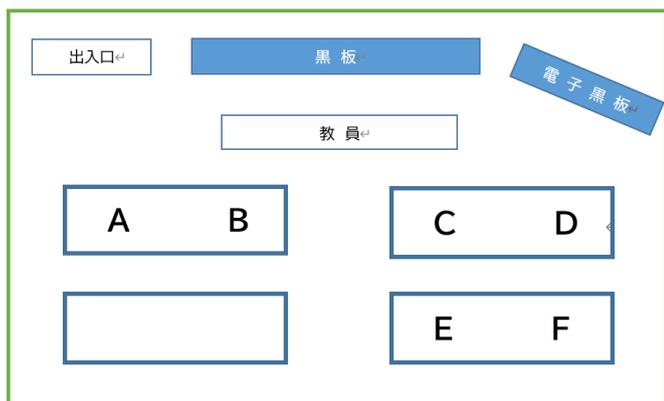
(5) 本時の学習過程 【11時間目:自由に詩を作ってみよう】

参考【本時の評価規準】

- ・詩のテーマに合わせて自分で書く詩の内容を大まかにまとめようとしている。(B③)
- ・写真やオマージュ、詩の表現技法を選択し、粘り強く考えて詩を創作しようとしている。(C①)

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
7分 導入	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ 当番による出席調べ 話す時の3つのポイントの確認 3つのポイントをみんなで評価 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策として窓やドアを開け換気する。 事前に全員へコメントを書いた振り返りノートを配布しておく。 話す時の3つのポイントを視覚的に分かりやすく提示する。 	A④ (観察)
10分 展開 ①	<ul style="list-style-type: none"> 見本となる良い作品を発表しながら、詩の表現技法(比喩、反復、体言止め)について前回の復習をする。 めあての確認 	<ul style="list-style-type: none"> 見本となる良い作品を実物の画像を提示しながら紹介する。 作品を通して詩の表現技法についてKeynoteを使って視覚的に分かりやすく説明する。 	A⑤ (観察)
25分 展開 ②	<ul style="list-style-type: none"> 各々が事前に選択した詩の創作方法で、テーマに合わせて詩を創作する。 可能なかぎり詩の表現技法を取り入れながら創作する。 時間がある生徒は推敲して見直し、詩を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で粘り強く作品の創作に取り組めるよう、しっかりと個々で創作する時間を確保する。 文章にするのが難しい生徒は、考えていることを言語化できるよう支援する。また必要に応じてマインドマップを使うよう勧める。 推敲するポイントを言葉かけする。 	B③④ C① (観察) (タブレットで作成した詩)
8分 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> めあてができたかどうか振り返りかえり、ノートに記入する。 次回の授業の流れを確認する。 あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りのポイントをホワイトボードに記入して示す。 次回の授業に見通しが持てるよう予定を伝える。 日直によるあいさつを促す。 	(振り返りノート)

(6) 教室配置等



(7) 「詩に親しもう⑦」プリント

使用する表現技法に○をつけましょう。

ひゆ
比喩 『よつな』
はんちく
反復 『くりかえし』
たいげん
体言止め 『名詞。』

あなたの詩の創作方法は？

あなたを作る詩のテーマは？

【詩に親しもう⑦】 名前()